

mg/m³とし、試験期間が短かったことから10で除した1 mg/m³が信頼性のある最も低濃度の知見と判断し、これを無毒性量等に設定した。

経口ばく露については、ばく露量が把握されていないため、健康リスクの判定はできなかった。なお、公共用水域・淡水の最大値として過去に報告（1982年）のあった河川中濃度から算出した経口ばく露量は0.008 µg/kg/day未満であったが、参考としてこれと無毒性量等125 mg/kg/dayから、動物実験結果より設定された知見であるために10で除して算出したMOE（Margin of Exposure）は1,600,000超となる。この測定結果は10年以上前のものであったが、生産量の推移やPRTRデータから公共用水域の水質濃度が大幅に増加している可能性は低いと考えられる。また、環境媒体から食物経由で摂取されるばく露量は少ないと考えられる。このため、本物質の経口ばく露による健康リスクの評価に向けて経口ばく露量の知見収集等を行う必要性は低いと考えられる。

吸入ばく露については、一般環境大気中の濃度についてみると、平均ばく露濃度は0.000074 µg/m³程度、予測最大ばく露濃度は0.00049 µg/m³程度であった。無毒性量等1 mg/m³と予測最大ばく露濃度から、動物実験結果より設定された知見であるために10で除して求めたMOEは200,000となる。また、化管法に基づく平成21年度の大気への届出排出量をもとに推定した高排出事業所近傍の大気中濃度（年平均値）の最大値は0.56 µg/m³であったが、それからMOEを算出すると180となる。従って、本物質の一般環境大気の吸入ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないと考えられる。ただし、2001年に比較して2007年の一般環境大気における本物質の検出率が増加していることから、今後もPRTRデータや大気中濃度の推移は注意深く見守る必要がある。

有害性の知見				ばく露評価		リスクの判定			評価			
ばく露経路	リスク評価の指標		動物	影響評価指標 (エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量及び濃度						
経口	無毒性量等	125	mg/kg/day	ラット	慢性腎炎	飲料水	—	µg/kg/day	MOE	—	×	(○)
						地下水	—	µg/kg/day	MOE	—	×	
吸入	無毒性量等	1	mg/m ³	ラット	影響のなかった最大濃度	一般環境大気	0.00049	µg/m ³	MOE	200,000	○	○
						室内空気	—	µg/m ³	MOE	—	×	×

4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における72時間 EC₅₀ 5,270 µg/L超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における48時間 EC₅₀ 6,500 µg/L超、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の96時間 LC₅₀ 5,370 µg/L超であった。藻類の毒性値は、調製可能な最高濃度区でも影響が見られなかった試験により得られたものであり、甲殻類及び魚類の急性毒性値も、調製可能な最高濃度の限度試験により得られたものである。したがって、急性毒性値に基づくPNECは設定しないこととした。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における72時間 NOEC 5,270 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における21日間 NOEC 1,720 µg/Lが信頼できる知見として得られたためアセスメント係数100を適用し、慢性毒性値に基づく予測無影響濃度（PNEC）17 µg/Lが得られた。本物質のPNECには、甲殻類の慢性毒性値から得られた17 µg/Lを採用した。

過去10年間において、本物質の予測環境中濃度(PEC)を設定できるデータが得られなかったため、生態リスクの判定はできなかった。本物質の公共用水域濃度は、過去のデータではあるが淡水域で0.2 µg/L未満の報告があり、海水域では概ね0.5 µg/L未満であった。この濃度とPNECとの比を求めると、淡水域では0.01未満、海水域では0.03未満となる。本物質の主な用途は、PET（ポリエチレンテレフタレート）樹脂やPBT（ポリブチレンテレフタレート）樹脂の原料であるが、PET製造の主力はテレフタル酸を原料とする方法に変わっている。また、生産量・輸入量の推移やPRTRデータから、公共用水域の水質濃度が大幅に増加している可能性は低いと考えられる。したがって、本物質については、新たに情報収集を行う必要性は低いと考えられる。

有害性評価 (PNECの根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (μg/L)	ばく露評価		PEC/PNEC比	PEC/PNEC比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (μg/L)			
甲殻類 オオミジンコ	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	17	淡水	-	-	×	○
					海水	-	-		

5. 結論

	結論		判定
健康リスク	経口ばく露	リスクの判定はできないが、情報収集等を行う必要性は低いと考えられる。	(○)
	吸入ばく露	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○
生態リスク	新たに情報収集を行う必要性は低いと考えられる。		○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない
 (○)：情報収集を行う必要性は低いと考えられる、(▲)：情報収集等の必要があると考えられる、(-)：評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す